

患者さんが **総義歯**を 使いこなすための **トレーニング法と 義歯調整法**

■ 著 鈴木 英史 Suzuki Eishi
日本補綴歯科学会専門医

推薦の辞

この度は、鈴木英史先生の記念すべき初の単著に推薦の辞を書くという大役を仰せつかり、まずは心より感謝申し上げたい。

鈴木先生とは実は大学の同窓で、学年は1つ違い。私が大学院の1年生だった頃、彼はちょうど臨床実習生であり、偶然にも私の上司の実習班に所属していた。その頃からの付き合いになるので、かれこれ20年以上の知己ということになる。思い返せば当時から、自分の信念に対して真摯に向き合う、熱意に満ちた学生であったと記憶している。

卒業後、彼は私が所属していた第二補綴科（義歯科）ではなく、クラウンブリッジを主分野とする第一補綴科に入局したが、それでも折に触れて義歯について意見を交わす機会があったように思う。そして、いつもその優秀さに感心させられていた。そんな彼が、いよいよ長年の義歯臨床の探究を結実させた本書『患者さんが総義歯を使いこなすためのトレーニング法と義歯調整法』が上梓されると聞き、心から嬉しく思っている。

本書は全4章から構成されているが、私の印象では大きく2つのパートに分けられる。前半では、患者さんが総義歯を使いこなすためのトレーニング方法とその理論がタイトルどおり明確に解説されている。これまでも「義歯には慣れが必要である」「前歯で咬断するのは難しい」「患者への説明とメカニズムの理解が大切である」といったことは広く知られていたが、“前歯で咬断する”という行為に真正面から向き合い、具体的なトレーニング法を示した書籍は、きわめて稀である。

特に本書では、リンゴを前歯で噛む際に生じる力のベクトルを理論的に考察し、ステージに応じたトレーニング法を提案している点が秀逸であり、彼のすばらしい着想には脱帽せざるを得ない。そしてその方法が、多くの若手歯科医師にも理解しやすいよう、丁寧に説明されている点も高く評価したい。

前半だけでも本書を手にする十分な理由となるが、後半では鈴木先生が長年取り組んできた義歯製作の知見が惜しみなく披露されており、まさに臨床家必読の内容となっている。

本書は、「前歯で食べ物を噛みたい」と願う多くの患者に希望をもたらす、これまでにない新しい視点のガイドブックであり、今後多くの歯科医師の臨床にとって、心強い道標となることを確信している。

2025年4月吉日
HILIFE DENTURE ACADEMY
松田 謙一

推薦の辞

歯科技工物を製作する業に就いてそろそろ 60 年になる。歯科技工士は歯科医師が印象採得された印象体から得られた硬い石膏模型に対峙して、患者の生体において心身ともに快適に用いていただける歯科補綴装置などを製作する仕事である。

その仕事は歯科理工学に基づいた製作方法により「いかに成型精度を得るか」ということに加えて、機能解剖学で学んだヒトの普遍的な形体を基にして、歯科医師の診査診断による指示と求めに応じ、患者個々のさまざまな条件の異なる空間内においてもっとも適した機能的形態を試行錯誤して造形することになる。

総義歯の機能的形態を製作することについて、Horst Uhlig は自らの著書『ウーリッヒ総義歯学』(Quintessenz, 1970., 小山正宏 (訳), 医歯薬出版, 1982.) において、「内科の疾病と關うには疾病分類学の知識が必要となるが、《無歯顎への補綴物》の場合は専ら問題となるのは物理学の知識である」と述べた。これまで筆者は、その物理的な前提を生体と総義歯に重ねた上で、「床下粘膜と咬合」に対して下顎運動と舌および口腔周囲筋の関係において患者から「なんともない」と言っていただけの技工物という「道具」の製作に取り組んできたが、最終的には患者に助けられる症例も多く経験してきた。

この度、世界で初めて「総義歯を製作する過程において最善の使い方までトレーニングし、かつ十分に使用できる治療用義歯製作の方法論」を鈴木英史先生が実践され、その詳細をすばらしいイラストを駆使して明解に述べた書籍が出版された。

これまで先人が積み上げてこられた補綴学のスキルを発揮することは最重要課題ではあるが、特に無歯顎総義歯は大きな脳を持ったヒトのみが使いこなせる「道具」であることから、「慣れる」ことを期待するのではなく「使い方を十分にトレーニングする」ことは正しい方法論である。歯科補綴学の新次元の幕開けとして、大いに期待している。

2025 年 4 月吉日
歯科技工士／PTDLABO
堤 嵩詞

はじめに

本書は、どのような義歯製作法を実践されている先生であっても、「読んだその日から取り入れていただける」ように執筆しました。私は十数年間にわたり自費治療の治療用義歯を用いたりハビリテーションを行い、その後に総義歯を製作し、経過を観察してきました。その中で得た知見から、多くの先生方が取り入れやすい内容を厳選して紹介しています。現段階で私が最善と考える方法をまとめたつもりです。もし私の方法にご賛同いただけるならば、一度本書の内容を、普段行っている義歯製作法にプラスして、自費の総義歯治療に取り組んでいただきたいと思います。ただし、私の考えが絶対に正しいとは思っていませんので、異なると感じた部分は、ぜひご自身で工夫し、アレンジして実践していただければ幸いです。私自身も、深水皓三先生、堤嵩詞先生をはじめ、多くの先生や書籍から学び、実際に自分で試行し、アレンジを加えながら、今のスタイルを築き上げてきました。

「総義歯は保険で十分だ」という言葉をしばしば耳にします。実際、痛みなく噛めればよいので、できるだけ早く、安価に作ってほしいと考える患者さんが多いのも事実です。一方で、「インプラントは入れたくないが、保険の総義歯も嫌だ。よい入れ歯を入れてほしい」と望む患者さんも、確実に存在します。このような患者さんには、単に客観的に質の高い総義歯を製作するだけでは十分に満足していただけないことが多いのです。高額な治療費を支払う分、治療に積極的に参加していただけますが、その要求レベルは保険治療の場合と比べ、はるかに高くなります。本書をお読みいただければ、自費の総義歯治療で本当に患者さんを満足させる方法を、明日から実践できるはずです。

なお本書は、介護現場における保険の総義歯治療を対象とした内容ではありません。歯科医院に自分で通うことができる患者さんに対する「自費での総義歯治療」のための内容です。意思疎通ができない方や、身体を思うように動かすことが難しい方、また『よい総義歯を入れたい』という願望のない方に提供しても、効果が得られない場合があります。そのような場合には、異なるアプローチが必要になると考えています。

現在、歯科技工士、特に義歯関連の歯科技工士は、自費・保険を問わず減少の一途をたどっています。世界に誇る日本の歯科技工士による匠の技を次世代に残していくためにも、歯科医師が自信を持って自費で質の高い総義歯を患者さんに提案できる力を身につけていただきたいと思います。

本書が、皆さんの「患者さんが心から満足する」総義歯臨床実践の一助となれば幸いです。

2025 年 6 月吉日
鈴木 英史

CONTENTS

推薦の辞（松田謙一／堤 高詞）	3
はじめに	5
著者紹介	10

プロローグ

もし患者さんから

「リンゴを丸かじりしたい」と言われたらどうしますか？

「リンゴを丸かじりしたい」と言われた時に 多くの歯科医師が考えがちなコト	11
「吸着」していても「噛めない」理由	12
誰もが気がつかなかった「噛めるようになる方法」	13
総義歯の質を高める×総義歯を使いこなす能力を高める ＝「患者満足度の高い総義歯臨床」の実践	14

Chapter 1

まずはトライ！

上顎総義歯・下顎有歯顎の患者さんでリンゴ丸かじり

1-1 まずはこんな患者さんでやってみよう	17
1-2 「下顎でリンゴを丸かじり」するステップ	20

FOCUS なぜこの方法でリンゴが丸かじりできるのか？

「上顎総義歯に加わる力」について

Chapter 1 のまとめ	24
----------------	----

Chapter 2

いざ挑戦！ 上下顎総義歯患者さんでもリンゴ丸かじり

2-1 上下顎総義歯患者ではリンゴ丸かじりが難しい理由	29
-----------------------------	----

2-2 上下顎総義歯患者でリンゴ丸かじりするための段取り	30
------------------------------	----

2-3 現在使用している総義歯の評価法	32
---------------------	----

▶ 患者さんの主観の評価

【1】 OHIP-14（Oral Health Impact Profile 短縮版）	34
---	----

【2】 総義歯の性能判定表（エイシ式）	35
---------------------	----

▶ 総義歯の客観的な評価

【1】 フードテスト	36
------------	----

【2】 維持力テスト	38
------------	----

2-4 総義歯を使いこなすための3段階トレーニング	40
---------------------------	----

初級レベル 脱力を身につける

【1】 開閉口トレーニング	42
---------------	----

【2】 タッピングトレーニング	43
-----------------	----

【3】 舌の脱力トレーニング	44
----------------	----

中級レベル 総義歯の限界を知り、対処法を身につける

【1】 下顎の指押しトレーニング	45
------------------	----

【2】 上顎の指押しトレーニング	46
------------------	----

【3】 ロールワッテトレーニング	47
------------------	----

FOCUS ロールワッテトレーニングで習得したい

顎堤を守り、総義歯が外れない「正しい噛み方」

エキスパートレベル

きゅうりやリンゴを丸かじりする方法を習得する

【1】 きゅうりの細い部分（直径2横指以下）丸かじり	52
----------------------------	----

【2-1】 下顎総義歯でリンゴ丸かじり	53
---------------------	----

【2-2】 上顎総義歯でリンゴ丸かじり	54
---------------------	----

【3】 きゅうりの太い部分（直径2横指以上）丸かじり	55
----------------------------	----

Chapter 2 のまとめ	56
----------------	----

CONTENTS

Chapter 3

ダイナミック印象による義歯調整法	61
3-1 ダイナミック印象による治療用義歯の調整ステップ	62
3-2 付着歯肉の幅が十分にある下顎におけるダイナミック印象	64
STEP 1 床縁を設定する	64
One Point Advice	
・どんな症例でも、「下唇を唇側に軽く広げる」が基本です！	68
・床縁設定前後の比較： 全体的にシャープになっていることに注目！	70
STEP 2 内面の適合がよい状態を作る（基礎維持の向上を図る）	71
One Point Advice	
・もっと基礎維持を向上したい場合の対応法	71
STEP 3 辺縁を修正する（閉鎖維持の向上を図る）	72
One Point Advice	
・頬側の小帯は「見て、触る」ことが一番！	75
・レトロモラーパッドが短い場合はペリモールドで延長しましょう	76
STEP 4 小帯部の形態を作る	77
One Point Advice	
・術者主導の動きでないと小体の動きを記録することは難しい	77
・頬側床縁の最終的な形態は患者主導の機能運動により決定します	79
・後日、ティッシュコンディショナーを補強する方法	81
STEP 5 研磨面形態を作る	82
3-3 付着歯肉の幅が狭い下顎におけるダイナミック印象	83
One Point Advice	
・顎堤吸収の著しい症例が難しい理由	83
STEP 1 床縁を設定する	84
STEP 2 内面の適合がよい状態を作る（基礎維持の向上を図る）	86
One Point Advice	
・「まずは痛くなく噛める状態」を目指す	86

3-4 上顎におけるダイナミック印象	88
STEP 1 床縁を設定する	88
STEP 2 内面の適合がよい状態を作る（基礎維持の向上を図る）	90
One Point Advice	
・患者主導によるティッシュコンディショナーでの内面の調製法	91
・STEP 2 から STEP 3 に移行する前に床縁を補強しよう！	92
STEP 3 辺縁を修正する（閉鎖維持の向上を図る）	93
STEP 4 小帯部の形態を作る	94
STEP 5 研磨面形態を作る	95
3-5 治療用義歯によるダイナミック印象 Q&A	96
Q ティッシュコンディショナーは何を使用していますか？	96
Q ダイナミック印象に「ゴール」はあるのでしょうか？	97
Q ダイナミック印象後の仕上げはどのようにしていますか？	98
Q ダイナミック印象後のステップを教えてください	99
Chapter 3 のまとめ	100

Chapter 4

術後 10 年経過してもリングが丸かじりできる 症例ダイジェスト解説	101
CASE 1 高度顎堤吸収した骨格性Ⅰ級傾向総義歯患者の 13 年経過症例 （男性・初診時 59 歳）	102
CASE 2 高度顎堤吸収した骨格性Ⅲ級傾向総義歯患者の 10 年経過症例 （女性・初診時 79 歳）	106
CASE 3 治療用義歯を用いたトレーニングの結果、総義歯による治療を 選択した骨格性Ⅱ級傾向患者の 10 年経過症例 （女性・治療開始時 60 歳）	112
Chapter 4 のまとめ	118
おわりに	119
参考文献一覧	120

著者紹介



鈴木 英史 すずき えいし

医療法人社団 英仁会 鈴木歯科医院（静岡県浜松市）

【略歴】

1997年 浜松日体高等学校 卒業
2004年 大阪大学歯学部 卒業
2008年 大阪大学大学院歯学研究科（歯科補綴学第一講座）卒業、博士号を取得
2009年 大阪大学歯学部附属病院 口腔補綴科 医員
2011年 鈴木歯科医院勤務
2013年 医療法人社団英仁会 鈴木歯科医院を設立、理事長に就任
2021年 日本顎咬合学会 支部選抜発表優秀賞（矢澤賞）受賞

【所属学会など】

- 日本補綴歯科学会 専門医
- 日本口腔インプラント学会
- 日本顎咬合学会
- DMC浜松
- 浜松歯科医師会会員

プロローグ

もし患者さんから
「リンゴを丸かじりしたい」
と言われたらどうしますか？



「リンゴを丸かじりしたい」と言われた時に 多くの歯科医師が考えがちなコト

総義歯の患者さんから「リンゴを丸かじりしたい」と言われたら、あなたはどうしますか？

きっと多くの歯科医師は、現義歯の問題点（維持力、支持力不足、適合不良）や、残存歯の咬合の問題点（咬合平面、咬合高径）を抽出し、その改善策を検討して、「外れない吸着する総義歯」を製作することを目指したり、「咬合の改善が必要だ」と考えたりするのではないのでしょうか。

たしかにこれらは大事なことです。これだけでは不十分です。なぜなら、どれだけ総義歯の維持力を向上したとしても、咬合力に抵抗できない場合があるからです。



こんな患者さんが
「リンゴを丸かじりしたい」と希望されたら
あなたならどうしますか？



図A ■ 69歳男性。硬いものを噛むと上顎の総義歯が外れてしまうので、普段は軟らかいものばかり食べているそうです。「何年も食べていないから、久しぶりにリンゴの味と食感を楽しみたい」と希望されました。

動画をCheck!



「吸着」していても「噛めない」理由

吸着している総義歯を使用していたとしても、なぜ「噛めない」と訴える患者さんがいるのでしょうか？ それは「吸着時の力」と「咀嚼時にかかる力」は別ものだからです。つまり「吸着」だけでは「咀嚼時に必要な力」に抵抗することができないから、総義歯が外れてしまうのです。

言い換えると、「吸着」だけを極めても「噛めない」患者が生じるのは当然なことなのです。



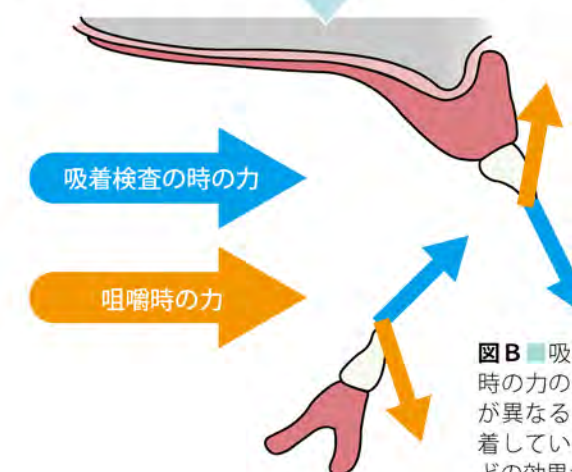
「なぜこんなに吸着しているのに
患者さんは噛めないのだろうか？」
……って考えたこと、ありますか？



動画をCheck!



吸着していても噛めない理由は「力の向き」にある！



図B ■ 吸着検査時の力の向き（→）と、咀嚼時の力の向き（↘）の違い。両者の力の向きが異なるため、たとえ吸着検査でしっかり吸着していたとしても、咀嚼時には期待するほどの効果が得られない可能性があります。

誰もが気がつかなかった 「噛めるようになる方法」

「咀嚼時に必要な力に抵抗することができない」と聞くと、「ならば維持力を高めよう」といろいろな方法を考えると思います。総義歯の調整や新製はもとより、ボーンアンカードブリッジやインプラントオーバーデンチャーならば維持力も十分に発揮できるでしょう。しかし、総義歯の調整はともかく、ボーンアンカードブリッジやインプラントオーバーデンチャーは治療費も時間もかかり、さらに外科処置が必要になるため、**どの患者さんでも受けいれるわけではありません。**

ということは、歯科医師は為す術がないのでしょうか……。実は、1つ方法があります。その方法を使うことによって、**筆者の歯科医院では何人もの患者さんが、総義歯の調整をしなくてもリンゴが丸かじりできるようになりました。**それも、顎堤が高度に吸収していたり、総義歯のクオリティに難があったりする患者さんで、です。

その方法とは、「**総義歯の使いこなし方を指導する**」です。「**このようにすればリンゴが丸かじりできる**」と指導し、少し練習をする……たったこれだけです。



もっと噛みたいと言うならば
「総義歯の新製」か「ボーンアンカードブリッジ」「インプラントオーバーデンチャー」くらいしか方法って、ないよね……



図C ■ 総義歯の維持力を高める方法として、総義歯の新製か、インプラントの使用を考えるのではないでしょう。

上顎総義歯、下顎部分床義歯を新製

ボーンアンカードブリッジによる機能回復



その治療計画を患者さんが受け入れなかったら、**もう為す術がなくなってしまうませんか？**

皆さん、数年前に話題になった「記録が出るマラソンシューズ」を覚えていますか？どの選手も同じシューズを履き、記録がどんどん塗り替えられた、あの靴です。そして多くのアマチュアランナーがそのシューズを購入し、ショックを受けました。「あのシューズを履いても記録が伸びないどころか、むしろ走りにくい……」。プロの靴をアマチュアが履いたとしても、結果が出なくて当然です。これは楽器でもいえます。**思い描く音は、そうやすやすとは出てくれません。**

これはなぜでしょうか？ それは、**その道具をあなたが使いこなせていないから**です。スポーツも音楽も、正しい方法を指導してもらい、あなたが練習して習得することで、その道具や楽器をはじめて使いこなせるようになるのです。

総義歯もまったく同じです。これまで「**総義歯の使いこなし方**」について、深く議論されることはありませんでした。歯科医師も患者さんも「噛めない理由」を「口腔内の問題」「総義歯の問題」「予算の問題」と考えてしまいましたが、視点を「**道具を使いこなす**」という方向に向けるだけで、患者さんの「**リンゴを丸かじりしたい**」「**不自由なく食べたい**」というニーズに応える、誰もが気がつかなかった近道を歩むことができるのです。



自分の経験を
思い出してみよう！

スポーツも音楽も「適切な指導」と「練習」が必要！
「プロと同じ道具」を使っても「結果が出ない」のは
その道具を「**使いこなせていない**」からで当然のこと！



この発想は「総義歯」にも当てはまります！



丸かじりできなかった患者さんも

少し練習をただけでそのアポ内にできた！

動画をCheck!



図D ■ 総義歯の調整をすることなく、総義歯の使い方を指導しただけで丸かじりが可能になりました！

総義歯の質を高める

×

総義歯を使いこなす能力を高める

＝

「患者満足度の高い総義歯臨床」の実践

本書は、これまで語られてこなかった「総義歯を使いこなす能力を高める」方法を解説することで、「より患者満足度の高い長期的に機能する総義歯臨床の実践」を支援することを目的としています。

これは、これまで多くの歯科医師が実践してきた「総義歯の質の向上」を否定するものではありません。「総義歯の質の向上」と「使いこなす能力の向上」は両輪の関係で、相乗効果が期待できます。

「速く走る方法を理解したら、もっと速く走れるようになる靴が欲しくなる」のと同様に、総義歯の使いこなし方を体得した患者さんは、モチベーションがどんどん高まります。そしてそれに応える良質な総義歯をあなたが提供したとしたら……。長期間にわたって機能する、患者満足度の高い総義歯臨床を実践できるというわけです。

Chapter 1 で解説するような患者さんから、まずは皆さんも実践してみましょう。そして「リンゴの丸かじりができた！」と、患者さんと一緒に喜びましょう。きっと、総義歯臨床がもっと楽しくなってくるはずです。

患者さんがあなたの治療に心から満足し、そしてあなたも日々充実した総義歯臨床を続けることができる……。歯科医師なら誰もが望むそんな人生の実現に、本書は必ず役に立つと思います。



図E ■「総義歯を使いこなす練習」と「良質な総義歯」の提供により、躊躇なくリンゴの丸かじりができるようになった患者さんたち。練習により一度身につけたノウハウは、何度でも再現できるようになります。



患者さんの
「私には無理」という
思い込みの払拭が
成功の鍵です！

残念ながら多くの患者さんは「できない」と思い込んでいます。そんな患者さんに、「私でもできる！」といった自信を抱いてもらうことが実はもっとも大切です。患者さんが自身の「心理的障壁」を乗り越えられるよう、常に応援する・サポートする姿勢で臨みましょう！

Chapter 1

まずはトライ！

**上顎総義歯・下顎有歯顎の
患者さんでリンゴ丸かじり**





CONTEMPORARY DESIGN

CONTEMPORARY DESIGN

CONTEMPORARY DESIGN



CONTEMPORARY DESIGN





THEORY OF CHANGE



THEORY OF CHANGE
The theory of change is a model that describes the process of change, from the inputs and activities to the outcomes and impact. It is a logical framework that shows how the project's activities will lead to the desired outcomes and impact.



THEORY OF CHANGE
The theory of change is a model that describes the process of change, from the inputs and activities to the outcomes and impact. It is a logical framework that shows how the project's activities will lead to the desired outcomes and impact.



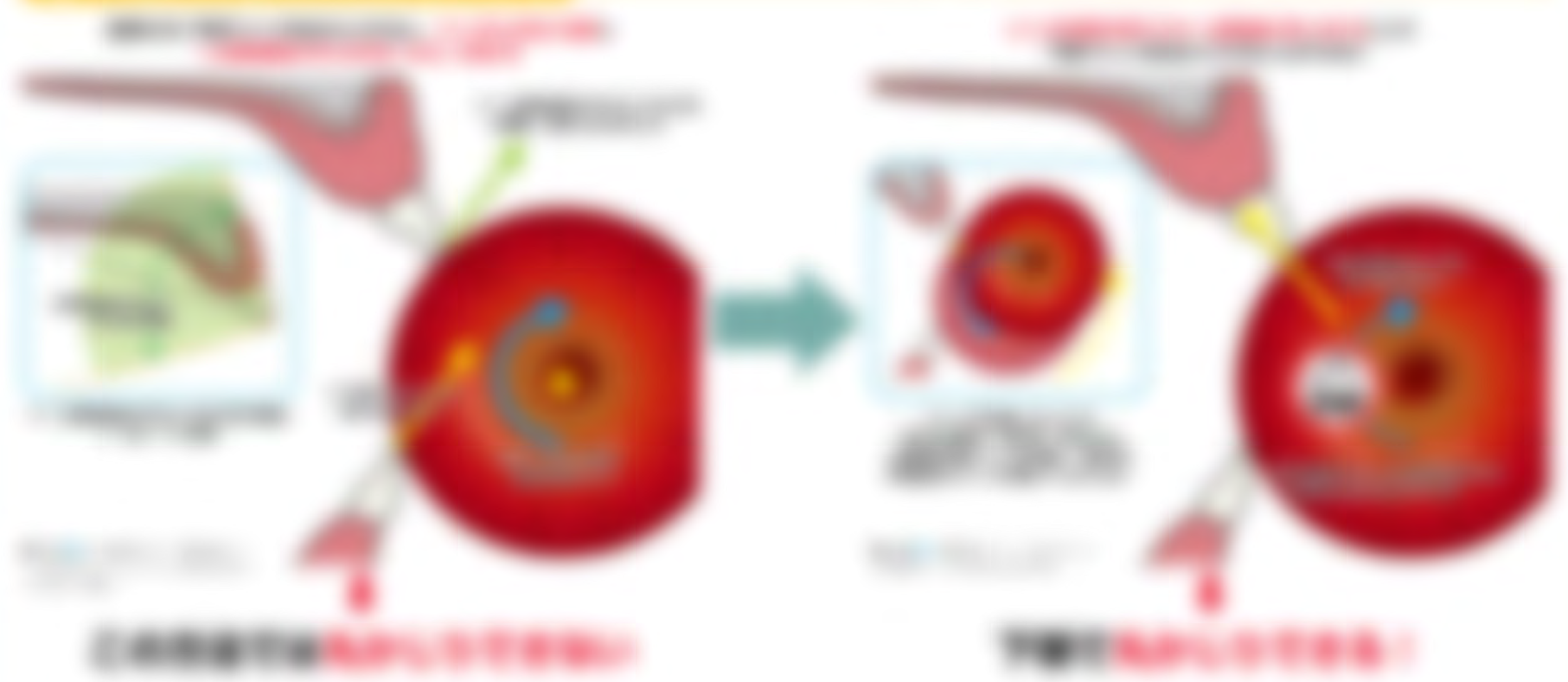
Figure 1: Theory of Change Diagram



PROBLEM
 The patient is a 45-year-old female with a history of hypertension and diabetes. She is currently on medication for both conditions. She has been experiencing fatigue and weight gain over the past few months.



PROBLEM
 The patient is a 45-year-old female with a history of hypertension and diabetes. She is currently on medication for both conditions. She has been experiencing fatigue and weight gain over the past few months.



Introduction to the Project

The project aims to develop a new software solution for managing customer data. The solution will be designed to be user-friendly, secure, and scalable. It will be developed using modern technologies and frameworks.



Project Overview

Project Overview

Project Goals

Project Goals

Project Scope

Project Scope

Project Risks

Project Risks

Project Deliverables

Project Deliverables

Project Objectives



THEORY OF THE MIND



THEORY OF THE MIND





青とオレンジ

青とオレンジは、
空と海の色。
青とオレンジは、
朝と夕の色。
青とオレンジは、
静けさと活気の色。

Chapter 2

いざ挑戦！

**上下顎総義歯患者さんでも
リンゴ丸かじり**





STANDARDIZED EVALUATION

PLEASE PROVIDE
YOUR COMMENTS
ON THE
STANDARDIZED
EVALUATION



STANDARDIZED
EVALUATION





REPUBLIC OF TURKEY MINISTRY OF NATIONAL EDUCATION

TECHNOLOGY AND INNOVATION CENTER



TECHNOLOGY AND INNOVATION CENTER





THEORY OF THE CASE

The theory of the case is a statement of the facts of the case, the law that applies to the facts, and the reasons why the law applies to the facts. It is a statement of the facts of the case, the law that applies to the facts, and the reasons why the law applies to the facts.



THEORY OF THE CASE

The theory of the case is a statement of the facts of the case, the law that applies to the facts, and the reasons why the law applies to the facts. It is a statement of the facts of the case, the law that applies to the facts, and the reasons why the law applies to the facts.

The theory of the case is a statement of the facts of the case, the law that applies to the facts, and the reasons why the law applies to the facts. It is a statement of the facts of the case, the law that applies to the facts, and the reasons why the law applies to the facts.

2023-2024 Budget

The 2023-2024 Budget is a comprehensive financial plan for the fiscal year. It outlines the expected revenue and expenses for the organization, providing a clear picture of the financial outlook.

The budget is divided into several key sections, including:

- Revenue
- Operating Expenses
- Capital Expenses
- Debt Service
- Reserve Funds

The total budget for 2023-2024 is \$1,234,567. This represents a 5% increase from the previous year's budget of \$1,176,543.



2023-2024 Budget

The 2023-2024 Budget is a comprehensive financial plan for the fiscal year. It outlines the expected revenue and expenses for the organization, providing a clear picture of the financial outlook.

The budget is divided into several key sections, including:

- Revenue
- Operating Expenses
- Capital Expenses
- Debt Service
- Reserve Funds

The total budget for 2023-2024 is \$1,234,567. This represents a 5% increase from the previous year's budget of \$1,176,543.

2023-2024 Budget

Category	Revenue	Operating Expenses	Capital Expenses	Debt Service	Reserve Funds
Revenue	\$1,234,567				
Operating Expenses		\$876,543			
Capital Expenses			\$123,456		
Debt Service				\$154,321	
Reserve Funds					\$90,234
Total	\$1,234,567	\$876,543	\$123,456	\$154,321	\$90,234

The 2023-2024 Budget is a comprehensive financial plan for the fiscal year. It outlines the expected revenue and expenses for the organization, providing a clear picture of the financial outlook.



1. The first step is to identify the problem. This involves understanding the current situation and the goals that need to be achieved. It is important to gather all relevant information and to consult with stakeholders to ensure that the problem is fully understood.

2. The second step is to develop a plan. This involves identifying the resources that are available and the actions that need to be taken to solve the problem. It is important to set clear objectives and to establish a timeline for the project.

3. The third step is to implement the plan. This involves putting the plan into action and monitoring progress. It is important to communicate regularly with stakeholders and to be flexible in the face of changes.

4. The fourth step is to evaluate the results. This involves assessing the outcomes of the project and determining whether the goals have been achieved. It is important to document the results and to share them with stakeholders.



2023-2024-25





The first part of the course is a
 Introduction to the course

The second part of the course is a
 Review of the course

The third part of the course is a
 Summary of the course

The fourth part of the course is a
 Conclusion of the course

The fifth part of the course is a
 Final assessment of the course

The sixth part of the course is a
 Final review of the course

The seventh part of the course is a
 Final summary of the course

The eighth part of the course is a
 Final conclusion of the course

The ninth part of the course is a
 Final assessment of the course



The tenth part of the course is a
 Final review of the course

Introduction

The first part of the course is a
 Introduction to the course



The second part of the course is a
 Review of the course



The third part of the course is a
 Summary of the course



The fourth part of the course is a
 Conclusion of the course

The fifth part of the course is a
 Final assessment of the course



The sixth part of the course is a
 Final review of the course



The seventh part of the course is a
 Final summary of the course

The eighth part of the course is a
 Final conclusion of the course



Beginner Level

Progress bar

Section 1: Introduction to the course

Section 2: Basic concepts

Section 3: Advanced topics



Beginner level characters

Beginner Level

Progress bar

Section 1: Introduction to the course

Section 2: Basic concepts

Section 3: Advanced topics

Section 4: Final project



Beginner level character

Beginner Level

1. Introduction

2. Basic Concepts

3. Advanced Concepts

4. Conclusion



5. Summary

Student Level

6. Introduction

7. Basic Concepts

8. Advanced Concepts

9. Conclusion

10. Summary

11. Introduction

Medium Level

1. A line graph shows the temperature of a liquid over time. The temperature starts at 20°C and rises to 80°C in 10 minutes. What is the rate of temperature increase per minute?

2. A rectangular prism has a length of 5 cm, a width of 3 cm, and a height of 4 cm. What is its volume in cubic centimeters?

3. A circle has a radius of 6 cm. What is its circumference in centimeters?



Medium Level

1. A line graph shows the temperature of a liquid over time. The temperature starts at 20°C and rises to 80°C in 10 minutes. What is the rate of temperature increase per minute?

2. A rectangular prism has a length of 5 cm, a width of 3 cm, and a height of 4 cm. What is its volume in cubic centimeters?

3. A circle has a radius of 6 cm. What is its circumference in centimeters?



Medium Level

1. **Identify the main idea of the passage.**

The passage discusses the importance of maintaining accurate records in a business setting. It emphasizes that proper record-keeping is essential for tracking financial performance, managing inventory, and ensuring compliance with legal requirements. The text also mentions that good records can help in making informed decisions and resolving disputes.

2. **Summarize the key points of the passage in your own words.**

The key points of the passage are:

- Accurate record-keeping is crucial for business success.
- Records help in tracking financial performance and managing inventory.
- Proper records ensure compliance with legal requirements.
- Good records aid in making informed decisions and resolving disputes.



3. **Write a short paragraph about the importance of record-keeping in a business.**



Medium Level



4. **Complete the table below.**

Record Type	Purpose
Financial Records	To track income and expenses.
Inventory Records	To monitor stock levels and manage supply.
Legal Records	To ensure compliance with laws and regulations.
Operational Records	To document business processes and procedures.



5. **Write a short paragraph about the importance of record-keeping in a business.**



Support Level 1
Support Level 1
Support Level 1



Support Level 1
Support Level 1
Support Level 1



Support Level 1
Support Level 1
Support Level 1



Support Level

Support Level

Support Level



Support Level



Support Level

Support Level

Support Level

Support Level



Support Level



Support Level

1. **Identify the main idea of the text.**



2. **Identify the supporting details.**



Support Level

1. **Identify the main idea of the text.**



Chapter 3

ダイナミック印象による義歯調整法

Chapter 3 では主に「治療用義歯を新たに製作した場合の義歯調整法」について解説していますが、各ステップは「自院で製作した自費の総義歯のリカバリー」にも応用可能です。
状況に応じて「治療用義歯」を「現義歯」に置き換えて参照ください。





PROCESSES OF REPRODUCTION

THE REPRODUCTIVE
SYSTEMS OF THE
HUMAN BODY
AND THE REPRODUCTIVE
SYSTEMS OF THE
HUMAN BODY



THE REPRODUCTIVE
SYSTEMS OF THE
HUMAN BODY
AND THE REPRODUCTIVE
SYSTEMS OF THE
HUMAN BODY





Heart and Blood Vessels



Heart Function



Heart Function



Heart and Blood Vessels



Heart Function



Learning Objectives



Identify the major structures of the female reproductive system.



Female Reproductive System

Structure	Function
Uterus	Site of fetal development
Ovary	Produce and release eggs
Fallopian Tube	Transport eggs from ovary to uterus
Vagina	Passageway for menstrual blood and sperm
Cervix	Lower part of the uterus
Vulva	External opening of the vagina
Clitoris	Sensitive organ for sexual pleasure
Labia	Outer lips of the vagina
Gland	Produce lubrication

Female Reproductive System



The female reproductive system is responsible for the production and release of eggs, fertilization, and the development of the fetus. It consists of the uterus, ovaries, fallopian tubes, vagina, cervix, vulva, clitoris, labia, and glands.





Female Reproductive System

The female reproductive system consists of the following organs:

- Ovaries:** Produce eggs and hormones.
- Uterus:** The muscular organ where a fetus develops.
- Cervix:** The lower part of the uterus that leads into the vagina.
- Vagina:** The canal that leads from the cervix to the outside of the body.
- Vulva:** The external opening of the vagina.





Male Reproductive System

The male reproductive system consists of the following organs:

- Testes:** Produce sperm and hormones.
- Vas Deferis:** The tube that carries sperm from the testis to the urethra.
- Urethra:** The tube that carries urine from the bladder to the outside of the body.
- Penis:** The organ that is used for sexual intercourse.
- Scrotum:** The sac of skin that holds the testes.



Male Reproductive System

The male reproductive system consists of the following organs:

- Testes:** Produce sperm and hormones.
- Vas Deferis:** The tube that carries sperm from the testis to the urethra.
- Urethra:** The tube that carries urine from the bladder to the outside of the body.
- Penis:** The organ that is used for sexual intercourse.
- Scrotum:** The sac of skin that holds the testes.



Male Reproductive System

The male reproductive system consists of the following organs:

- Testes:** Produce sperm and hormones.
- Vas Deferis:** The tube that carries sperm from the testis to the urethra.
- Urethra:** The tube that carries urine from the bladder to the outside of the body.
- Penis:** The organ that is used for sexual intercourse.
- Scrotum:** The sac of skin that holds the testes.



THE HUMAN BODY IS A COMPLEX SYSTEM OF ORGANS AND TISSUES THAT WORK TOGETHER TO MAINTAIN LIFE.



CHAPTER 10: THE NERVOUS SYSTEM

THE NERVOUS SYSTEM: AN OVERVIEW



The nervous system is the body's communication system. It consists of the brain, spinal cord, and peripheral nerves. The brain is the central control center, and the spinal cord is the main pathway for information between the brain and the rest of the body. Peripheral nerves branch out from the spinal cord to reach every part of the body.

The nervous system is divided into two main parts: the central nervous system (CNS) and the peripheral nervous system (PNS). The CNS includes the brain and spinal cord. The PNS includes all the other nerves in the body.



Neurons are the basic units of the nervous system. They are specialized cells that transmit information. There are three main types of neurons: sensory neurons, which carry information from the body to the brain; interneurons, which connect sensory neurons to motor neurons; and motor neurons, which carry information from the brain to the muscles and glands.

CHAPTER 11: THE MUSCULOSKELETAL SYSTEM

THE MUSCULOSKELETAL SYSTEM: AN OVERVIEW



The musculoskeletal system is the body's framework. It consists of the bones, muscles, and joints. The bones provide structural support and protection for internal organs. The muscles are responsible for movement and posture. The joints connect the bones and allow for flexibility.



Joints are the points where two or more bones meet. They are classified into three main types: ball-and-socket joints, which allow for a wide range of motion; hinge joints, which allow for flexion and extension; and pivot joints, which allow for rotation. The muscles and ligaments work together to stabilize the joints and facilitate movement.

Male Reproductive System

The male reproductive system is responsible for the production and transport of sperm. It includes the testes, epididymis, vas deferens, urethra, and accessory glands (seminal vesicle, prostate gland, and bulbourethral gland).



The testes are the primary sex organs, responsible for producing sperm and testosterone. The epididymis is a coiled tube that stores and transports sperm from the testes. The vas deferens is a long, thin tube that carries sperm from the epididymis to the urethra. The urethra is a tube that carries urine and sperm out of the body. The accessory glands (seminal vesicle, prostate gland, and bulbourethral gland) produce and secrete fluids that mix with sperm to form semen.



Female Reproductive System

The female reproductive system is responsible for the production and development of eggs, the release of eggs from the ovaries (ovulation), and the transport of eggs to the uterus. It also plays a role in the production of female sex hormones, which are essential for the development and maintenance of the female body.

Key Components:

- Ovaries: Produce and release eggs.
- Uterus: The organ where a fetus develops during pregnancy.
- Vagina: The canal through which sperm travels to reach the egg.
- Cervix: The lower part of the uterus that opens into the vagina.
- Vulva: The external opening of the vagina.



Figure 10.1: The Female Reproductive System

The female reproductive system is a complex of organs and structures that work together to produce and develop eggs, release them from the ovaries (ovulation), and transport them to the uterus. It also plays a role in the production of female sex hormones, which are essential for the development and maintenance of the female body.

1. Introduction

1.1 Overview

This document provides a comprehensive overview of the project goals, objectives, and scope. It outlines the key components and deliverables that will be produced throughout the project lifecycle.

1.2 Objectives



The primary objectives of this project are to develop a robust system architecture, implement core functionality, and ensure high-quality testing and deployment. The project aims to deliver a scalable and secure solution that meets the needs of the end-users.



1.3 Scope



The project scope is defined by the specific features and functionalities to be developed. It includes the design, development, and testing of the system components, as well as the final deployment and user training.



Project Scope

2. System Architecture

2.1 Overview



The system architecture is designed to support the core business processes and ensure data integrity and security. It consists of several key components that work together to provide a seamless user experience.



The architecture is built on a solid foundation of industry-standard technologies and best practices. It is designed to be flexible and scalable, allowing for future growth and integration with other systems.



It is important to note that the system architecture is subject to change based on evolving requirements and technological advancements. Regular communication and collaboration between the development team and stakeholders are essential to ensure the system remains aligned with the project goals.



Introduction



Methodology

The methodology section describes the research approach, including data collection methods, sample size, and statistical analysis techniques. It outlines the steps taken to ensure the validity and reliability of the findings.

Results

The results section presents the findings of the study, organized into several sub-sections. It includes a detailed description of the data collected and the analysis performed.



Conclusion

2025 CONCEPTS-05

1. 2025 CONCEPTS-05



2025 CONCEPTS-05
 2025 CONCEPTS-05
 2025 CONCEPTS-05



2025 CONCEPTS-05
 2025 CONCEPTS-05
 2025 CONCEPTS-05



2025 CONCEPTS-05
 2025 CONCEPTS-05



2025 CONCEPTS-05
 2025 CONCEPTS-05





PROF. DR. J. J. J. J.

12/05/2019



12/05/2019



Microscopic image of a tissue section showing a large, irregular, reddish mass.



Microscopic image of a tissue section showing a large, irregular, reddish mass.

Microscopic image of a tissue section showing a large, irregular, reddish mass.

Learning Objectives

After studying this chapter, you should be able to:

- describe the anatomy and physiology of the eye
- explain the process of vision
- describe the common eye disorders
- explain the importance of eye health



Visual Perception

The process of visual perception involves the eye receiving light from the environment and the brain interpreting the information. This process is influenced by various factors, including the quality of the light, the state of the eye, and the state of the brain.

The diagram illustrates the anatomy of the human eye. It is divided into two main sections: the external eye and the internal eye. The external eye includes the eyelids, eyelashes, and the sclera (white part). The internal eye includes the iris, pupil, lens, and retina. The diagram also shows the optic nerve and the ciliary muscles.

Visual Perception

The process of visual perception involves the eye receiving light from the environment and the brain interpreting the information. This process is influenced by various factors, including the quality of the light, the state of the eye, and the state of the brain.



10.1

10.1.1

10.1.2



Figure 10.1: Evolution of the system over time.

10.2

10.2.1

10.2.2



Figure 10.2: Evolution of the system over time.

PROBLEM 1
PROBLEM 2

PROBLEM 1
 The first part of the problem is to find the value of x for which the function $f(x)$ is continuous at $x = 0$. The function $f(x)$ is defined as follows:

$f(x) = \begin{cases} x^2 + 1 & \text{if } x < 0 \\ x^2 + 2x + 1 & \text{if } x \geq 0 \end{cases}$

For $f(x)$ to be continuous at $x = 0$, we must have $\lim_{x \rightarrow 0^-} f(x) = \lim_{x \rightarrow 0^+} f(x) = f(0)$. We can find $\lim_{x \rightarrow 0^-} f(x)$ by substituting $x = 0$ into the first part of the function definition, and we can find $\lim_{x \rightarrow 0^+} f(x)$ by substituting $x = 0$ into the second part of the function definition. We can find $f(0)$ by substituting $x = 0$ into the second part of the function definition.

PROBLEM 2
 The second part of the problem is to find the value of x for which the function $f(x)$ is differentiable at $x = 0$. The function $f(x)$ is defined as follows:

$f(x) = \begin{cases} x^2 + 1 & \text{if } x < 0 \\ x^2 + 2x + 1 & \text{if } x \geq 0 \end{cases}$

For $f(x)$ to be differentiable at $x = 0$, we must have $\lim_{x \rightarrow 0^-} f'(x) = \lim_{x \rightarrow 0^+} f'(x) = f'(0)$. We can find $\lim_{x \rightarrow 0^-} f'(x)$ by substituting $x = 0$ into the derivative of the first part of the function definition, and we can find $\lim_{x \rightarrow 0^+} f'(x)$ by substituting $x = 0$ into the derivative of the second part of the function definition. We can find $f'(0)$ by substituting $x = 0$ into the derivative of the second part of the function definition.



PROBLEM 1
PROBLEM 2

PROBLEM 1
 The first part of the problem is to find the value of x for which the function $f(x)$ is continuous at $x = 0$. The function $f(x)$ is defined as follows:

$f(x) = \begin{cases} x^2 + 1 & \text{if } x < 0 \\ x^2 + 2x + 1 & \text{if } x \geq 0 \end{cases}$

For $f(x)$ to be continuous at $x = 0$, we must have $\lim_{x \rightarrow 0^-} f(x) = \lim_{x \rightarrow 0^+} f(x) = f(0)$. We can find $\lim_{x \rightarrow 0^-} f(x)$ by substituting $x = 0$ into the first part of the function definition, and we can find $\lim_{x \rightarrow 0^+} f(x)$ by substituting $x = 0$ into the second part of the function definition. We can find $f(0)$ by substituting $x = 0$ into the second part of the function definition.

PROBLEM 2
 The second part of the problem is to find the value of x for which the function $f(x)$ is differentiable at $x = 0$. The function $f(x)$ is defined as follows:

$f(x) = \begin{cases} x^2 + 1 & \text{if } x < 0 \\ x^2 + 2x + 1 & \text{if } x \geq 0 \end{cases}$

For $f(x)$ to be differentiable at $x = 0$, we must have $\lim_{x \rightarrow 0^-} f'(x) = \lim_{x \rightarrow 0^+} f'(x) = f'(0)$. We can find $\lim_{x \rightarrow 0^-} f'(x)$ by substituting $x = 0$ into the derivative of the first part of the function definition, and we can find $\lim_{x \rightarrow 0^+} f'(x)$ by substituting $x = 0$ into the derivative of the second part of the function definition. We can find $f'(0)$ by substituting $x = 0$ into the derivative of the second part of the function definition.





山田 太郎 (Yamada Taro)

山田太郎は、東京大学医学部卒業後、厚生労働省で勤務し、現在は民間企業で経営者として活躍している。

山田太郎は、健康と労働のバランスを重視し、ワークライフバランスを推進している。また、社会貢献活動にも積極的に参加している。

山田太郎は、健康と労働のバランスを重視し、ワークライフバランスを推進している。また、社会貢献活動にも積極的に参加している。

Chapter 4

**術後10年経過しても
リンゴが丸かじりできる
症例ダイジェスト解説**





1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE** 2. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**

1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**

1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**

2. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**



1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**



1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**

1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**



1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**

1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**



1. **IDENTIFYING THE TYPE OF CURVATURE**

PROSTATECTOMY



Prostatectomy is a surgical procedure to remove the prostate gland. It is typically performed for men with prostate cancer. The procedure involves making an incision in the perineum (the area between the rectum and the scrotum) and removing the prostate gland. The rectum is then closed with sutures.

PROSTATECTOMY



Prostatectomy is a surgical procedure to remove the prostate gland. It is typically performed for men with prostate cancer. The procedure involves making an incision in the perineum (the area between the rectum and the scrotum) and removing the prostate gland. The rectum is then closed with sutures.

PROSTATECTOMY



Prostatectomy is a surgical procedure to remove the prostate gland. It is typically performed for men with prostate cancer. The procedure involves making an incision in the perineum (the area between the rectum and the scrotum) and removing the prostate gland. The rectum is then closed with sutures.

PROSTATECTOMY



Prostatectomy is a surgical procedure to remove the prostate gland. It is typically performed for men with prostate cancer. The procedure involves making an incision in the perineum (the area between the rectum and the scrotum) and removing the prostate gland. The rectum is then closed with sutures.



Prostatectomy is a surgical procedure to remove the prostate gland. It is typically performed for men with prostate cancer. The procedure involves making an incision in the perineum (the area between the rectum and the scrotum) and removing the prostate gland. The rectum is then closed with sutures.

Prostatectomy is a surgical procedure to remove the prostate gland. It is typically performed for men with prostate cancer. The procedure involves making an incision in the perineum (the area between the rectum and the scrotum) and removing the prostate gland. The rectum is then closed with sutures.

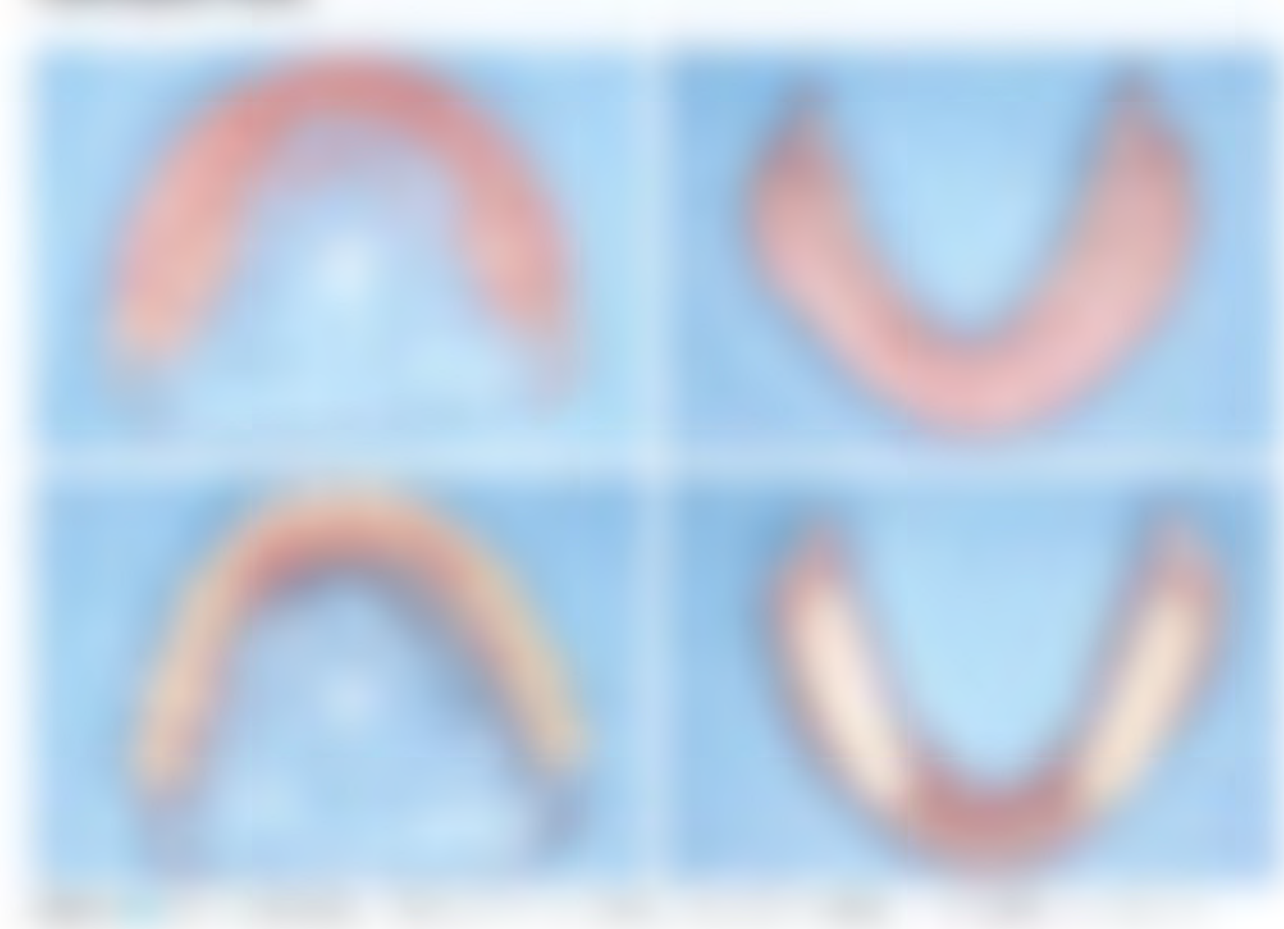


DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES U.S. GOVERNMENT PRINTING OFFICE: 2010-204-100-100-100

OFFICE OF THE SECRETARY



OFFICE OF THE SECRETARY



OFFICE OF THE SECRETARY





Figure 1. Pre-operative clinical photographs.



Figure 2.



Figure 3. Post-operative clinical photographs.

Figure 10-10: Normal occlusion



Figure 10-11: Malocclusion

Malocclusion is a condition where the teeth do not meet properly. It can be caused by a variety of factors, including genetics, poor oral hygiene, and trauma. There are three main types of malocclusion: overbite, underbite, and crossbite. Overbite is when the upper teeth protrude over the lower teeth. Underbite is when the lower teeth protrude over the upper teeth. Crossbite is when the teeth do not meet evenly across the jaw. Malocclusion can lead to a variety of problems, including difficulty chewing, speech problems, and tooth decay. It is important to see a dentist if you suspect you have malocclusion.



THESE ARE THE
THESE ARE THE
THESE ARE THE
THESE ARE THE

THESE ARE THE



THESE ARE THE



THESE ARE THE

THESE ARE THE



THESE ARE THE



Figure 10-1



Figure 10-1 shows the dental arches and the brackets and wires. The diagrams are labeled with 'A' and 'B'.

Figure 10-2

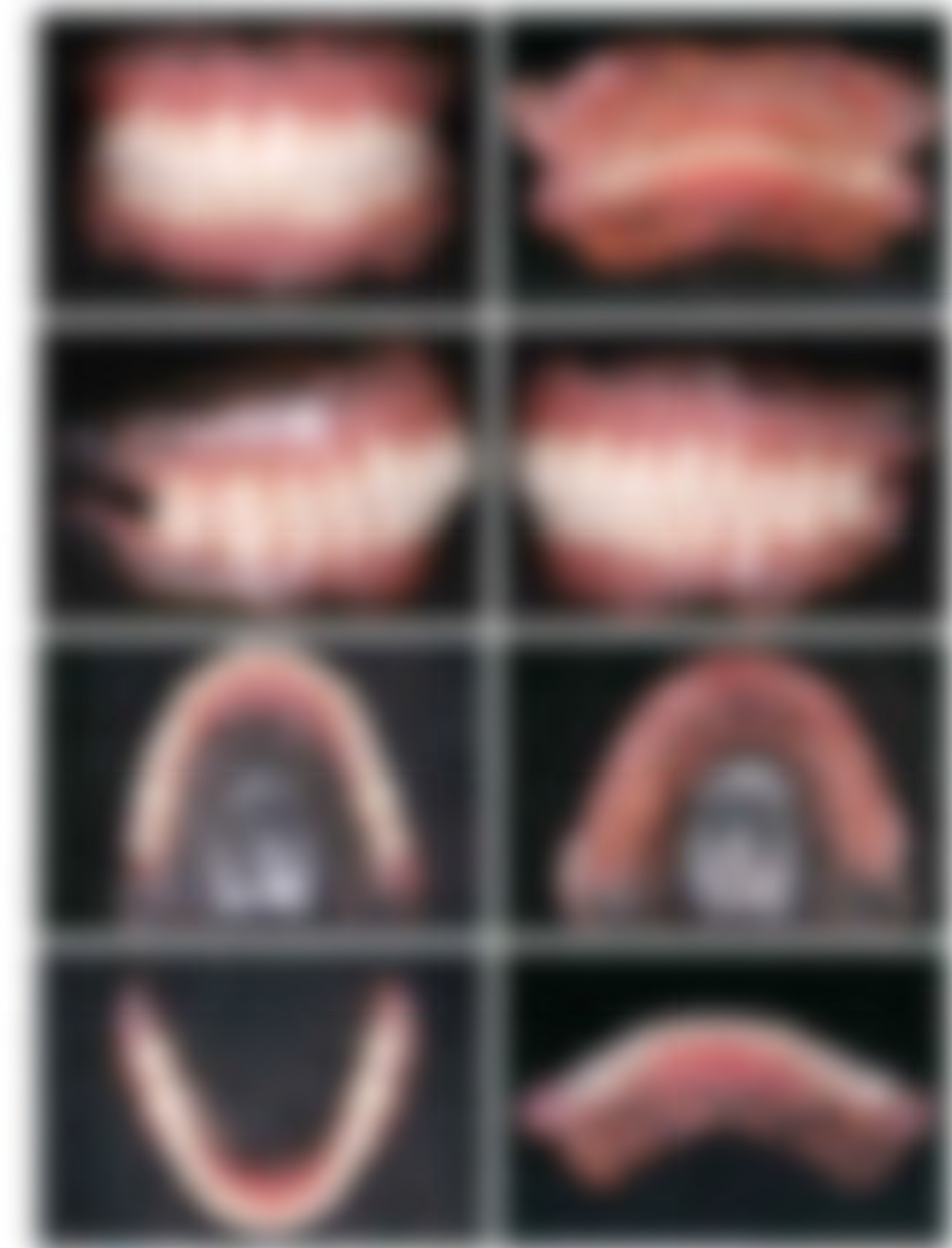


Figure 10-2 shows the dental arches and the brackets and wires. The diagrams are labeled with 'A' and 'B'.



[Dental Services](#)



[Dental Services](#)



[Dental Services](#)



おわりに

これまで多くの無歯顎患者さんに、ボーンアンカーブリッジ、インプラントオーバーデンチャー、自費の総義歯それぞれのメリット・デメリットを説明し、治療用義歯を用いたトレーニングを経て、最終的な補綴方法を決定してきました。どちらかといえばインプラント治療に誘導する形で治療を始めることが多かったのも事実です。しかし、治療用義歯でトレーニングを続けていく中で、「総義歯では噛めないと思っていたが、こんなに噛めるのであれば総義歯で十分だ」と感じ、最終的に総義歯を選ぶ患者さんも少なくありませんでした。そして、多くの患者さんが自身の体験を通して、納得した上で総義歯を選択する姿を目の当たりにしてきました。本書を読んで、一人でも多くの歯科医師や患者さんが、私と同じような経験をしてもらいたいと心から願っています。

私が「総義歯を使いこなす能力を高めることの重要性」に気づくことができたのは、私を信じて患者指導してくれた鈴木歯科医院のスタッフ、そしてトレーニングに熱心に取り組んでくださり、貴重なフィードバックを数多く与えてくださった患者さんのおかげです。改めて、深く感謝申し上げます。私ひとりの力では、けっしてこのような考えには至らなかったと思います。

また、大阪大学大学院時代の恩師・石垣尚一先生には、リハビリテーションについて鋭いご指摘をいただき、総義歯治療におけるリハビリテーションの意味をより深く考えるきっかけをいただきました。さらに、浜松日体高等学校時代の恩師・萩田勝久先生からは、物理学的な観点から義歯の挙動を考える際に多くのご指導を賜りました。

そして、歯科技工士の大石昌司氏（浜松デンタルエイト）、今回の治療のベースとなっている治療用義歯によるリハビリテーションを教えてくださいました深水皓三先生、堤 嵩詞先生（PTDLABO）にも、心より感謝申し上げます。堤先生には推薦の辞を快くお引き受けただけだけでなく、本書を製作するにあたり多くのご指導を賜りました。

さらに、推薦の辞を快くお引き受けくださった松田謙一先生（HILIFE DENTURE ACADEMY）、日々ご指導いただいている DMC 浜松のメンバー、本書の内容を理解し、ともに広めようと尽力してくださっている歯科技工士・奥森健史氏（デンタル・プログレッシブ）にも感謝の意を表します。なお、奥森健史氏と私を繋いでくださったのも大石昌司氏でした。

また、私の伝えたいことを丁寧に引き出し、編集してくださったインターアクションの編集スタッフ諸氏にも、心より感謝申し上げます。

最後に、本書執筆にあたり、日々支えてくれている妻と家族へ、この場を借りて心より感謝を伝えたいと思います。

2025 年 6 月吉日
鈴木 英史

【参考文献一覧】

▶ Chapter 1

- De Lucena SC, Gomes SG, Da Silva WJ, Del Bel Cury AA. Patients' satisfaction and functional assessment of existing complete dentures: correlation with objective masticatory function. J Oral Rehabil 2011;38(6):440-446.

▶ Chapter 2

- 齊藤 孝. 身体感覚を取り戻す. 腰・ハラ文化の再生. 東京：NHK 出版, 2000.
- 日本補綴歯科学会ガイドライン作成委員会. III. 咀嚼障害評価法のガイドライン. 主として咀嚼能力検査法. 補綴誌 2002;46(4):619-625.
- 甲野義紀. 古武術に学ぶ身体操法. 東京：岩波書店, 2003.
- 養老孟司, 甲野義紀. 古武術の発見. 日本人にとって「身体」とは何か. 東京：光文社, 2003.
- 日本顎口腔機能学会 (編). よくわかる顎口腔機能. 咀嚼・嚥下・発音を診査診断する. 東京：医歯薬出版, 2005.
- 木塚朝博. 特集に寄せて. 動きを阻害する過緊張や無駄な力. パイオメカニズム学会誌 2011;35(3):156-158.
- 脇田裕久. 総説. 身体運動と脱力. 東海保健体育科学 2012;34:1-12.
- 佐藤勝史. This is suction denture. 東京：デンタルダイヤモンド社, 2017.
- 丸茂義二. 舌骨から紐解く顎機能の謎. 丸茂義二のファイナルアンサー. 東京：デンタルダイヤモンド社, 2022.

▶ Chapter 3

- 増田英世. Dr. Earl Pound の総義歯製作法. 補綴臨床 1972;5(2):123-130.
- David M. Watt, A. Roy MacGregor. Designing Complete Dentures. Philadelphia: W.B Saunders, 1976.
- Horst Uhlig (著), 小山正宏 (訳). ウーリッヒ総義歯学. 東京：医歯薬出版, 1982.

- 桜井唯次, 深水皓三, 堤 嵩詞, 中尾克彦. “桜井式無痛デンチャー”を学ぶ. 補綴臨床 1990;23(6):593-628.
- 加藤吉昭. “よく噛める義歯”づくり①. Hydro-Cast Program を基礎として. デンタルダイヤモンド 1991;16(10):58-75.
- 深水皓三, 堤 嵩詞. 総義歯治療における診査・診断の重要性と PILOT Denture System. 補綴臨床 2001;34(1):44-61.
- 中尾勝彦. 補綴臨床MOOK. 無痛デンチャーの臨床. 東京：医歯薬出版, 2002.
- 堤 嵩詞, 深水皓三 (編). 歯科技工別冊. 目でみる人工歯排列 & 歯肉形成 実力アップのための Training with Basics. 東京：医歯薬出版, 2005.
- Earl Pound (著), 坂本 勲 (訳), 桜井 薫 (監訳). 患者との信頼関係を築く総義歯製作法. ティッシュコンディショナーを活用して. 東京：わかば出版, 2009.
- 諏訪兼治, 堤 嵩詞. 補綴臨床別冊. 科学的根拠に基づく総義歯治療. クリアトレーによる選択的加圧印象と V.H.D プレートによる咬合採得の実際. 東京：医歯薬出版, 2012.
- 堤 嵩詞, 平岡秀樹. 総義歯づくり すいすいマスター. 総義歯患者の『何ともない』を求めて. 時代は患者満足度. 東京：医歯薬出版, 2014.
- 深水皓三 (編), 堤 嵩詞, 阿部伸一, 岡田尚士 (著). 治療用義歯を用いた総義歯臨床. 松風歯科クラブカラーアトラス 2014;43.
- 濱田泰三, 村田比呂司. THE SOFT LINING. 軟質リラインの本質. 東京：デンタルダイヤモンド社, 2016.
- 森谷良彦, 深水皓三 (監修), 森谷良行 (著). 患者さんの心をつかむ総義歯臨床. 東京：インターアクション, 2018.
- 本郷英彰, 堤 嵩詞. 治療用義歯をさらに再考すれば. 病理的デンチャースペースの生理的デンチャースペースへの変換過程. 前編. 歯科技工 2022;50(10):946-965.
- 本郷英彰, 堤 嵩詞. 治療用義歯をさらに再考すれば. 病理的デンチャースペースの生理的デンチャースペースへの変換過程. 後編. 歯科技工 2022;50(11):1113-1138.

患者さんが総義歯を使いこなすための トレーニング法と義歯調製法

2025 年 6 月 6 日 第 1 版 第 1 刷発行

著 鈴木 英史
発行人 畑めぐみ
発行所 インターアクション株式会社
東京都武蔵野市境南町 2-13-1-202
電話 070-6563-4151
FAX 042-290-2927
web <https://interaction.jp>

印刷・製本 シナノ印刷株式会社

©2025 インターアクション株式会社 禁無断転載・複写
Printed in Japan 落丁本・乱丁本はお取り替えします

ISBN 978-4-909066-75-6 C3047

定価は表紙に表示しています